

事業所の概要表

( R4年 1月 20日 現在)

事業所名	グループホームかわせみ					
法人名	社会福祉法人光明会					
所在地	愛媛県西条市大町776-23					
電話番号	0897-52-0390					
FAX番号	0897-52-1118					
HPアドレス	http://www.koumyokai-saijo.com/					
開設年月日	平成 12 年 10 月 3 日					
建物構造	<input type="checkbox"/> 木造 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 ( 3 ) 階建て ( 1 ) 階部分					
併設事業所の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ( ケアハウス水の里・ヘルパーステーション水の里・小規模特養せせらぎ )					
ユニット数	1 ユニット		利用定員数 9 人			
利用者人数	9 名 ( 男性 0 人 女性 9 人 )					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	2 名	要介護2	3 名
	要介護3	1 名	要介護4	1 名	要介護5	2 名
職員の勤続年数	1年未満	1 人	1~3年未満	2 人	3~5年未満	0 人
	5~10年未満	1 人	10年以上	4 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 5 人			
	その他 ( 准看護師、ヘルパー、認知症ケア専門士 )					
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( <input type="checkbox"/> 直接雇用 <input checked="" type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約 )					
協力医療機関名	村上記念病院					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ( 看取り人数: 2 人 )					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	45,000 円	
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円	
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	
食材料費	1日当たり	1,300 円 ( 朝食: 円 昼食: 円 )
	おやつ:	円 ( 夕食: 円 )
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ( )	
その他の費用	水道光熱費	400/日 円
	共益費	300/日 円
	オムツ	実費 円
	理美容	実費 円

家族会の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (開催回数: 0 回) ※過去1年間		
広報紙等の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (発行回数: 3 回) ※過去1年間		
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	2 回 ※過去1年間	
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者	<input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者
		<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員	<input checked="" type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input type="checkbox"/> 近隣の住民
		<input type="checkbox"/> 利用者	<input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input checked="" type="checkbox"/> 家族等
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 ( )	介護相談員	

# サービス評価結果表

グループホームかわせみ

## サービス評価項目

(評価項目の構成)

### I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

### II.家族との支え合い

### III.地域との支え合い

### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!  
ステップ外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない  
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和4年4月25日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	7	(依頼数)	9
地域アンケート	(回答数)	2		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870600339
事業所名 (ユニット名)	グループホームかわせみ
記入者(管理者) 氏名	高橋 英子
自己評価作成日	令和4年1月20日

<p><b>【事業所理念】※事業所記入</b> 共に喜び、共に微笑み、そっと背に手を添えられる、共感できるケアを目指します。</p>	<p><b>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入</b> 介護計画に基づいた記録に努めているが、気づきや工夫は記入しても計画につなげる記録は十分にできない。コロナウイルスの影響により、地域との関わりが少なくなっている。</p>	<p><b>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</b> 家族には、月1回、連絡票を送って利用者の様子を報告している。連絡票は、個々の担当職員が、食事、入浴、活動、コミュニケーションの状況をまとめ、写真を載せて作成している。季刊誌かわせみ通信は、行事等、活動の様子の写真やコメントを載せて報告している。  ドライブに出かける際には、車に乗ってから、利用者「どこに行きたい？」等聞き、希望に応じている。人の少ない時間帯等を考慮して出かけており、市民の森やお城の塀や鳩のエサを持参して出かけている。散歩をしたり、シーツ交換する際には、居室から表庭に出て過ごす時間をつくっている。玄関先の藤棚の下にテーブルといすを置いており、花をみながら過ごしたり、お茶の時間を持たしている。</p>
--	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	これまでの生活歴や日々での関わりの中で利用者の思い、意向を把握する様努めている。	○		○	介護計画を作成する際、本人に「何がしたい?」「困っていることはない?」等聞いて思いや意向の把握に取り組んでいる。普段得た情報は、個別記録(介護記録)に記入することになっている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日々の関わりの中、本人の表情や言葉から汲み取る様努め、家族や関係者にも相談している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	来訪時や電話にて本人の情報を得られる様努めている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	フェイスシートやアセスメントシートを利用し、職員間で共有している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の立場となり考える様努めているが、関係者からの情報も大切にしている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時に本人、関係者から情報を聞き取り、フェイスシートに記録をしている。入居後知り得た情報も記録している。			◎	入居時、本人、家族から聞き取り、入居するまでの経過、生活歴、1日の過ごし方の希望(朝はゆっくりおき・23時くらいまで起きている・日中はうたた寝する等)、得意な事、身だしなみ・整容(爪は短めが好き・短髪が好き)等を暮らしの情報シートにまとめている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	アセスメントシートに記入しているが、日や時間によっても状態が異なる方もあり、その都度把握する様努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の生活で本人の状態を観察し、変化に応じた対応についても記録している。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	体調不良、夕方等、その人ごとに不安や不安定になる要因の把握に努め情報を共有している。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	個別記録、24時間シートで一日の過ごし方や様子を記録し、変化についても記録している。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	利用者の状況に応じて何をすべきか本人の立場に立って考える様になっている。			○	月1回の職員勉強会(職員会議、ケアカンファレンスを含む)時に、利用者の言葉等の情報を持ち寄り話し合っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人や家族から聞き取った情報を踏まえケース検討会で話し合っている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	本人らしく暮らせるようケース検討会などで今後の課題について検討している。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人、家族と話し合い、思いや意向を反映する様に努めている。				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人、家族等と話し合い、ケース検討会で日々の介護方法等を含めまとめている。	○		○	事前に本人、家族から希望を聞き計画に反映している。利用者の状態によっては、医師からのアドバイスを反映して計画を作成している。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人がどう過ごしたいか考えながら、他の方との関わりが持て、穏やかな暮らしができるよう努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナウイルスによる影響により、関わりが難しいが、電話や手紙等工夫している。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	定期的なケース検討会で、検討、把握している。			△	新たに計画を作成した際には、計画作成担当者がケアカンファレンス時に説明して共有しているが、計画内容の把握や理解については不確かな面がある。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	日々の様子を記録しているが、実践等の記録が少ない。			△	個別記録(介護記録)に記入するが、記録量は少なく、その内容を探さなければならない。
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的な内容を個別に記録している。	△	個別記録に、日々の暮らしの様子を記入しているが、支援内容が少ない。			△	個別記録(介護記録)に記入するが、記録量は少なく、その内容を探さなければならない。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	職員の気づきや工夫は申し送り等されているが、記録が少ない。			x	職員間の口頭でのやり取りに止まっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	定期的に見直ししているが、状態の変化に応じて見直す場合もある。			◎	計画作成担当者が期間を管理しており、3～6カ月毎に計画を見直ししている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	担当職員の毎月の連絡票を参考に現状確認を行っている。			△	月に一回家族に送付する連絡票(食事、入浴、活動、コミュニケーションの情報を記入)で、現状を確認しているが、介護計画に関する内容についても現状確認するしくみをつくってはどうか。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入退院や状況に変化が生じた場合は、現状に即したプランを作成している。			○	退院時等、身体状態の変化が見られる際に見直しを行っている。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	状態の変化に合わせて、その都度話し合いを行っている。			◎	月1回、職員勉強会(職員会、ケアカンファレンス含む)を行い、勉強会記録を作成している。支援について話し合う必要がある場合は、申し送り時を捉えて話し合っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員が色々な考えやアイデアを出し合えるように努めている。意見を言い合える雰囲気となっている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	全ての職員が参加できる日程とし、事前に通知している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	ほとんど参加しているが、できない場合には会議録を見て確認してもらい、管理者からも伝えていく。			○	欠席者は、勉強会記録を確認したり、管理者から説明を受けたりしているが、さらに、確認したことが分かるようなしくみをつくってほしい。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容や方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	毎日業務を始める前に業務日誌に目を通し、申し送りでも伝達している。			○	業務日誌に記入して申し送っている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝えるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	家族からの伝達等も日誌に記入し、情報の共有を図っている。		◎		
<b>(2) 日々の支援</b>									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者にしたいことや食べたいものを聞き、希望に添えるよう努めている。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定できる方には調理や作業等さまざまなことから機会を作っている。			◎	
		c	利用者が思いや希望を伝えるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者が返答しやすいよう、わかりやすくその人ごとに話しかけている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	その人ごとのペースや習慣を大切に支援している。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	本人の得意とすることや、やりたいことをする機会を作り、職員も楽しみながら接し、楽しいと感じる時間を持つよう努めている。			◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	本人の表情や動きで思いを汲み取るよう努めている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	利用者の人権や尊厳について話し合い、意識して行動している。	◎	○	○	年3回、身体拘束や虐待について研修の機会を持ち、学んでいる。事業所理念は、研修の折りに話題に挙げており、職員ロッカーにも貼り意識して取り組めるようにしている。職員は、「あがり」と言っている言葉がけや態度があれば、管理者や計画作成担当者が注意をしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であらさずさな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	自立している方もおり、目立たずさりげない声掛けを努めている。				◎
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	声かけの仕方等を工夫し、自尊心を損なうことのない様に心掛けている。				◎
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室へは利用者の確認をとリロックする等配慮している。				◎
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入職時に研修し、内部研修でも学んで理解に努めている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者をお世話される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者ができることをしていただくなど、日々の生活に関わってもらい、助けていただいた際は、感謝の言葉を伝えている。				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士で協力し合い、楽しんで家事をしている。また、体調不良の方に優しく声をかけている利用者もいる。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになつたり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者につまづき力発揮してもらう場面をつくる等)	○	利用者の性格や関係性を把握し、配慮している。利用者同士がトラブルとならないよう、役割分担もさりげなく行っている。			○	家事等の分担は、トラブルにならないように利用者の様子をみながら願っている。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	状況に応じて職員が間に入り、場所や雰囲気を交える等工夫している。利用者の話を傾聴し、安心していただけるよう努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人から話を聞き、家族等から得た情報から把握している。				/
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	本人、家族等より話を聞く中で情報を収集する等、できる限り努めている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナウイルスによる影響で、外出が思うように出来ず、面会の方には意欲が低かったり、別室で行い、関係が途切れないよう支援している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	コロナウイルスによる影響で、面会制限を行っている為、電話、手紙を利用し、コミュニケーションをとっていただいている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	コロナウイルスによる影響で、全体での外出は難しいが、少人数での散歩やドライブ、外気浴ができるよう支援している。	△	×	○	ドライブに出かける際には、車に乗ってから、利用者に「どこに行きたい？」等と聞き、希望に応じている。人の少ないような時間帯等を考慮して出かけており、市民の森やお堀の鯉や鳩のエサを持参して出かけている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナウイルスによる影響により、外部の方と関わりを持つことができない。				○ 散歩をしたり、シーツ交換する際には、居室から裏庭に出て過ごす時間をつくったりしている。玄関先の藤棚の下にテーブルといすを置いており、花をみながら過ごしたり、お茶の時間を持つたりしている。
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	庭先や掃き出し窓から裏庭へ出て、日差しを感じたり、花を見たりしている。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	コロナウイルスによる影響で思うように支援できないが、希望を聞き、行きたいところや季節を感じられる所にドライブに行っている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	内部研修で認知症について正しく理解できる様学んでいる。その人ごとの対応方法を職員全体で検討している。				
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	全体で行う体操や声出しを楽しく行い、機能訓練を行っている。個別で歩行訓練等もやっている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者のできることは見守りし、その日の状態に応じて一緒に行動している。できそうなことは過剰支援とならないよう努めている。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	アセスメント情報を基に、利用者ごとの能力に応じた役割を、家事や活動の場で持ってもらえるよう支援している。				○ 流し台に使用したコップ類が溜まると、洗ってくれるような利用者がある。昼食やおやつ時に職員と一緒にテーブルクロスを掛ける利用者がある。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	本人が得意とする事、好む事を状態に応じて出番を作り、役割と感じ、張り合いが持てる様支援している。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	コロナウイルスによる影響で思う様に支援できない。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	その人ごとのこだわりや好み、これまでの生活習慣を尊重しながら、清潔に心がけ、おしゃれと一緒に楽しんでいる。				○ 食事時には、タオルをエプロン代わりにしている。  ○ 衣類は家族が用意している。年配の職員が古着を持参してくれて、気に入った服があれば譲ってもらえるような機会がある。2ヶ月に一回、近所の理髪店の方が来て散髪をしてくれており、世間話をしながら本人の希望を聞き付けている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪型や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	本人が好んで使用していたものをできるだけ使いたいと入居時に説明し、用意してもらい支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	好きなもの、好きな柄等、普段の会話等から情報を得、支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	コロナウイルスによる影響で行動に制限がある中、一層気分を明るくするためにもおしゃれを楽しんでもらっている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	その人ごと声掛けを工夫し、さりげない介助を心掛けている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	ほとんどの方が訪問理美容を受けている。馴染みの理容師さんと髪型についても話し合いながら行っている。				
		g	重度な状態であっても、髪型や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	その人らしい服装で過ごせる様支援し、髪や着衣の乱れに配慮している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食べることが楽しみである方が多く、五感を刺激し、身体全体の動きを活性化できる様努めている。				2月から食事提供について変更があった。朝食は、事業所で手作りするが、昼、夕食は法人の厨房から出来上がった食事が届くようになっている。利用者は、食事の準備や後片付け、朝食の下準備等にかかわっている。  利用者の食の好みの傾向を把握しており、いも類やかぼちゃを好むこともあり、多めに使用している。利用者からの提案でジャガイモご飯をつくってみたようなことがあった。  職員がタケノコを差し入れしてくれたりする。九州出身の利用者がおり、時には懐かしいだんご汁をつくったりする。  箸は、毎年個々の担当職員が選んだものをクリスマスプレゼントにして、元旦に下ろしている。  新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。  食事やおやつ時には、テーブルクロスを掛けて食卓の雰囲気をつくっている。	
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	買い物には出かけていないが、利用者の好みや希望を話し合っって献立作りを行い、できる調理には進んで行われ、後片付けも役割分担している。					
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の方の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	テーブルクロスを拭く人、置く人、トレーを拭いて片づける人、おやつ後に片付けをする人等と、自ら進んで行う方が増えている。					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居時に聞き取りをしているが、普段の生活から知り得た情報も記録し共有している。アレルギーのある方、症状に応じた食事制限のある方等把握している。					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	献立作りの際に、利用者の好きなもの、食べたいものをお聞きし、旬の食材をできるだけ使っている。食事の際に、昔はこうしていた等の話があり、参考にしている。					
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	その人ごとに適した食事形態としている。ミキサーの方には魚の形にしてみたりと工夫している。					
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	使い慣れたコップを使用する方、重なりプラスチックのコップを使用する方、混乱を防ぐため柄のない無地のコップを使用する方と色々。箸はクリスマスの際、その人に応じたものを選びプレゼントし、新年に下ろしている。			◎		
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も同じ食事を食べ、見守りやサポートを行っている。					評価困難
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理の音や匂いが五感に働きかけ、食事を楽しくしてもらえ。食事前に献立を伝え、テーブルクロスをかけることが食事の合図となっている。		◎			○
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	その人ごとの食事量とし、嫌いなものである場合は、代替して、一日を通じて、栄養、水分がとれるように努めている。					
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事形態を変えたり、好みのものを提供している。水分は好みのものを用意し、脱水に注意している。					
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	併設施設の栄養士に献立、調理方法について相談し、アドバイスを受けている。					○
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	分別してまな板を使用し、布巾を毎日消毒している。食材管理は担当者と当日の職員とで行っている。					
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性を理解し、利用者の見守り、支援をしている。				口腔ケア時に目視で確認している。異常があれば個別記録に記入して申し送り、受診につなげている。  毎食後、職員が声かけやサポートを行い支援している。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	義歯や残歯の情報を職員間で共有している。			○		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	かかりつけ歯科医、衛生士と連携し、指導を受けている。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後、本人で行える方は、外して洗うよう支援し、できない方は介助している。夜間は入れ歯洗浄剤で消毒を行っている。					
		e	利用者の力を引き出ししながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後声かけし、できる範囲で口腔ケアしてもらい、必要に応じて介助している。うがいが難しい方には、お茶でのうがいを勧めている。					○
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	痛みがあったり、食事中の様子から不具合を把握し、必要に応じ、受診支援を行っている。週一回受診している方もいる。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	排泄の自立の大切さを理解し、オムツ等の使用にあたり、本人と職員で話し合っている。				利用者全員がトイレで排泄ができるように取り組んでいる。排泄状況については、随時、情報共有しており、支援や排泄用品を試しながら支援している。排泄用品は、利用者が自分で使用できること、費用の負担軽減等を踏まえてを検討している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘になり起こりうる状態について理解し、日々の状況を職員間で共有している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	その人ごとの排泄の状況について職員間で共有している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	○	本人の排泄の習慣やパターンを把握したものに基いて配慮しながら声掛けし、その人ごとの状態に応じた支援を行っている。	◎			
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	体調や状態を把握し、トイレで排泄できるよう、その人ごとに対応し、取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	尿意、便意のサインを見逃さないようし、配慮しながら声掛けしている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	日中、夜間の排泄状況を本人や家族と話し合い、応じたものが使用できるよう支援している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	その人ごとの状態に応じて、下着や紙パンツ、パッドを使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	自然排便となるよう、飲食物を提供し、運動を勧めている。				
		20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	毎日お風呂に入れるよう準備し、その人ごとに応じた入浴に努めている。	◎	
b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。			○	その人ごとのペースや好みで入浴できるよう支援している。				
c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。			○	できることは本人にしてもらうよう声掛け支援している。				
d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持良く入浴できるよう工夫している。			○	入浴を渋られる方には入浴できるよう声掛けを工夫している。				
e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。			○	体調やバイタルチェックをし、本人にも確認し、入浴している。入浴後に水分補給して、状態に応じてひと休みする方もいる。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	その人ごとの睡眠状況について把握できるよう日々申し送りしている。				現在、薬剤内服者はいない。夕食後は、温かいお茶を飲みながらテレビをみたり、歌を歌ったりして過ごし、おおよそ21時くらいに居室に戻って寝るような生活リズムになっている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の過ごし方を検討し、レクリエーションや家事作業など勧め、リズムよい生活が送れるよう努めている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	できるだけ薬剤に頼らず過ごしてもらえよう日中の過ごし方、関わり方に注意している。	◎			
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	その人ごとの状態でひと休みを勧めたり、お気に入りのソファで過ごしたりしている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人から希望があれば、電話したり、手紙のやり取りができるように支援している。年賀状もできるだけコメント記入してもらっている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	出来る限り本人に書いてもらっているが、手が震えたり、字を忘れたりする方には手を添えたり、下書きしたりしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望がなくても気持ちを推測し、勧めている。遠方の家族から荷物や手紙が届くとその都度こちらから連絡する様勧めている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙類をポーチに入れて、毎晩休む前に見て、家族の事を想う方がいる。書くことが嫌な方には電話を勧めている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族等に協力してもらえている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を所持すること、使う事の意味や大切さを理解している。				/		
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	コロナウイルス感染防止により買い物に出かけることはできないが、欲しいものを代わりに購入している。						
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナウイルス感染防止により買い物に出かけていない。						
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使うように支援している。	△	自身で管理できる方は家族と相談し、所持している。						
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人や家族の意向を聞き、話し合っている。						
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預かり金は使用の有無、残金を報告し、チェックしてもらっている。						
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	×	コロナウイルス感染防止により、外部の方との関わりが少ない。	◎		○	「主人の実家に行ってみよう」「墓参りに行きたい」と言う人には、他利用者も誘って近くまで行ってみようような支援をしている。		
<b>(3) 生活環境づくり</b>											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	感染予防の為、ホーム内への立ち入りを許可していないが、申込相談の方や、近隣の方が花見を楽しんでもらえるよう工夫している。	◎	◎	◎	一般家庭のような門扉を開けて入ると、玄関前の庭には藤棚があり、花のプランターを並べてテーブルや椅子を配置している。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	玄関回りを手作りの布地で装飾し、柔らかい雰囲気としている。季節を感じられる飾りつけを工夫している。	○	○	○	評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	食器の音や職員の声のトーンに注意している。トイレ等においては使用後の処理を行い、消毒している。光についてはカーテン、ブラインドで調節している。				評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	窓を開け季節の匂いを感じたり、花を見たり、台所からの調理の香りを感じてもらおう。食事をする際、テーブルクロスをかけ、静かに音楽をかけている。					評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		d	気の合う利用者同士で思い通りに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	小さなスペースだが、一人になったり、仲の良い利用者同士が寛げる場を作っている。						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	トイレや浴室の内部は扉があり、共用空間からは直接見えない。						
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	本人の好むもの、使い慣れたものを自由に持ち込んでもらい、位牌や仏壇を置いている利用者もいる。テレビ、ラジオを好む方もいる。	◎			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	手すりを設置し、廊下に物を置かず安全に移動できる様にしている。靴箱は本人が選んだ布地とし、わかりやすくしている。				○	利用者の靴箱は、それぞれが選んだ柄のカーテンをつけている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	生活する中で危険と思われるものは、本人から見えない場にしまったり、除いたりしている。						
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に入るように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほつき、職種道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	雑誌や新聞はいつでも自由に見られる様にホールに置いてある。趣味や道具については安全面から別の場所に置いているものもある。						
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全員の職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感、あきらめ、気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	利用者の行動を制限することが身体拘束に繋がることを職員が理解している。	×	△	○	年3回、身体拘束や虐待について研修の機会を持ち、学んでいる。日中、玄関に鍵をかけず対応しているが、利用者の落ち着かない様子が見られる時のみ施設している。さらに、鍵をかけないケアについては、家族にも事業所の取り組みを説明する機会を設けてはどうか。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施設を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時に家族と話し合っている。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	出入口にはセンサーを設置しており、その都度対応している。						
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>											
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時に情報を収集し、職員が共有している。変化や追加があれば、その都度記入している。					/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々の状態を記録している。普段と違う状態があれば報告する様職員間で連携をとっている。						
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	協力医療機関の医師、看護師の往診が月に2回あり、変化があればすぐ相談ができ、必要に応じて受診している。						



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居時にこれまでの受診状況や現在の病気を把握し、本人や家族の希望に応じている。入居後にも症状に応じて医療機関を受診できるよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	入居後、新たな症状があり、本人、家族の考えを再確認し、適切な医療を受けられる様支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診介助する方が多く、家族に報告、連絡している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時、介護要約で情報提供している。認知症状や対応についての情報も伝えている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	主治医、担当看護師、ケースワーカーと連携を取り、早期に受け入れられる様努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	普段よりケースワーカーと関わりを持ち、介護担当者会では情報を交換している。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	協力医療機関の看護職に少しでも気になることがあれば相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間いつでも連絡体制がとれていて、相談できる関係づくりが出来ている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	利用者により異常があれば、看護師に報告して、必要に応じて受診している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	服薬表で管理し、変更があればきちんと申し送りしている。新しく処方された時、薬剤師より効能や副作用について説明を受け共有している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	職員が管理し、3度のチェックで飲み忘れや誤薬を防いでいる。名前を呼んで声に出して確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬による副作用が無いかに注意しており、必要に応じて主治医に連絡している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	受診時に状態の経過報告し、情報提供している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に終末期について説明し、話し合う機会としてもらっている。意向が状態により変わることもあり、現時点での対応について記入している。				入居時には説明を行い、家族等の意向を聞いている。その後は、状態変化時に話し合い、方針を共有している。この一年間では支援事例はなかった。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人、家族の意向を聞き、職員、医療関係者、主治医と話し合い、支援の方針を定めている。	○	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	△	緊急時の対応について話し合い、職員の力量に応じて連絡体制を整えている。医療行為が必要となれば、ホームでは看ることが難しいことも伝えている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時に説明しているが、状況に応じて十分説明し理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人、家族の希望を大切に、主治医、医療機関と話し合い、職員間の意識の確認も行っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の気持ちに寄り添い、気持ちを汲みながら支援している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	流行する前に内部研修で学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルを作成し、対応できるようにしている。汚物処置セットを用意している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	色々な機関から情報を入手し、取り入れている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	流行状況の情報収集をし、新型コロナ感染症が発生してから面会や、職員の行動制限等、随時対応している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員、利用者は手洗いやうがい、消毒を行っている。職員はマスク着用、利用者は外出時にマスク着用している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	日頃より本人について相談し、連絡をとっている。				新型コロナウイルス感染症対策期間のため評価はできない。 居間の窓越しで面会できるよう支援している。月1回、連絡票を送付して報告している。連絡票は、個々の担当職員が、食事、入浴、活動、コミュニケーションの状況をまとめ、写真を載せて作成している。季刊誌かわせみ通信は、行事等、活動の様子の写真やコメントを載せて報告している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	コロナウイルスによる影響で、面会制限を設けており、窓越し面会、ソーシャルディスタンスをとったりしている。その際の写真を撮ったり、関係性を保てる様支援に努めている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	コロナウイルス感染防止により実施できない。	○		評価困難	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月連絡表で本人の様子や、写真を送り、細やかに暮らしぶりを伝えている。通信も定期的に送っている。	◎	◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	コロナウイルス感染防止により電話対応が主となっているが、家族の想いを把握できる様努めている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	コロナウイルス感染防止により電話対応が多く、会話が成り立たなかつたり、聞こえていなかったりすることから、職員が付き添って良好な関係を築ける様支援している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	連絡表や通信でお知らせしている。コロナウイルス感染防止により面会状況が異なり随時報告している。		△	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	現在はコロナウイルス感染防止により実施していない。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	制限のない生活がリスクを生じることを説明し、状態が変化した際にも伝え、それに対しケア内容を話し合っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にしている。	○	面会制限の中来訪される家族に、不安や心配な点を伺うようにしている。電話連絡の際、職員とだけでなく、利用者本人とも話をし、お互いに安心感が得られる様にしている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時にはわかりやすく説明し、理解が得られる様にしている。変更がある場合にも説明し、納得を得られる様にしている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去についても十分に話し合いをし、納得のいく退去先に移れるよう支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時、料金改定時は料金の内訳を文書で示し、説明を行い、同意を得ている。				
<b>III. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	事業所の設立前から説明会を行い、地域の方にホームの目的や役割を説明している。		◎		職員が、地域の井手さらい(用水路掃除)に参加している。近所の理髪店(地区の役員)が訪問して散髪をしてくれており、地域の情報を得ているが、地域とのかわりは少ない。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なおつきあい、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	コロナウイルスによる影響により地域との関わりが少なくなっている。地域活動は職員が参加している。		△	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	コロナウイルスによる影響により地域との関わりが少なくなっている。				
		d	地域の人気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	コロナウイルス感染防止により立ち寄り遊びに来たりできない。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	コロナウイルス感染防止により立ち寄ることはできず、日常的なおつきあいをできないが、挨拶をかわしたりしている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	ボランティア、慰問等行っていない。なじみの理容師は感染症対策を行い、散髪してもらっている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	少人数でのドライブ、利用者にとって懐かしかったり行きたい場所に出かけている。庭先での散歩で気分転換を図っている。				
		h	地域の人たちや周辺地域の施設からも協力を得ることができよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	コロナウイルスによる影響により地域との関わりが少なくなっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	コロナウイルスの感染状況を見て開催出来るときには少人数で短時間開催しているが、利用者は参加していない。	△		△	この一年間では、家族、地域住民、相談員等の参加を得て、2回会議を開催している。さらに、集まる会議が難しいような場合でも会議を継続できるよう書面会議等についても検討してはどうか。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価結果や目標達成計画と取り組み状況について報告している。			○	会議時は、行事報告をしたり、ミニ講座を行ったりしている。外部評価実施後は、結果報告を行った。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況と結果等について報告している。	○	会議での意見を参考にして取り入れ活かせるように努め報告している。			◎	△	質疑応答の時間を設けており、管理者等が質問等に応じているが、意見や提案は少なく、サービスに活かしたり、その結果を報告したりする取り組みには至っていない。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	感染症対策を講じて、メンバーと相談し、出席しやすい日程、時間としている。			◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	玄関に掲示し、ホームページで公表している。					
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	ホームの理念をロッカーに掲示し、ホームに入る前に念頭に置き、日々理念に基づいた業務を心がけている。					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	利用者は玄関に掲示してあるので見たり聞いたりしているが、ホームに入る機会が少ない家族や地域の人は説明した機会のみとなっている。	△	○			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	コロナウイルスの影響により外部での研修の機会は少ない。内部研修は毎月開催している。					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	職員に応じたOJTを行い、スキルアップできるよう取り組んでいる。					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	人事考課を行い、個々の努力や勤務状況に応じて昇給がある。有給取得を勧め、働きやすい職場環境づくりに努めている。					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナウイルスの影響により、交流する機会が少ない。グループホーム協会に加入している。					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	運営委員会、介護担当者連絡会等、話し合いの場を作り、相互に支えあう関係づくりをしている。ストレスチェック制度を導入しており、フォローもある。	◎	◎	○	有給休暇を積極的に取れるようにしている。ストレスチェック制度を導入している。結果は本人に通知が届き、希望があれば医師と面談できるようになっている。	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	定期的に内部研修でテーマに取り上げ、学び、理解している。					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎月の内部研修時に日々のケアについて振り返り、ケア内容について話し合っている。					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	不適切なケアと思われた場合は、管理者に報告することとしている。			○	年3回、身体拘束や虐待について研修の機会を持ち、学んでいる。	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の様子や体調に注意し、コロナウイルスによるストレスについても注意している。希望休、有給休暇と休みを大切に、リフレッシュしてもらうようにしている。					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	定期的に内部研修で学び、理解している。					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	どのようなことが身体拘束に当たるのか学び、現場の状況に照らし合わせて話し合っている。					
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束をすることにより、本人に及ぼす影響や弊害について説明をし、理解を得られる様になっている。					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	入居してから成年後見制度を利用した方あり。職員に報告しながら学び、理解している。					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	本人、家族の現状から、どの制度を利用するか話し合い、支援を行った。					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	制度の利用をはじめ、後見人との連携を図っている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルを作成し、落ち着いた対応できる様に周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	併設施設とAEDを設置し、応急手当や初期対応等実践力を身に付けるよう努めている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットに記入し、すぐに対策方法を話し合い共有している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	状態の変化への気づきを共有し、リスクを検討して介助方法を話し合い、事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し、苦情窓口が対応する。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情があれば原因や対策を検討する。必要時には市へも報告する。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	対策案を検討し、速やかに回答する。サービス改善について納得を得、その後のサービスにつないでいる。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくる。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	コロナウイルス感染防止により会議に出席せず、相談員も受け入れできないため、職員が利用者の意見や要望、苦情を聞くように努めている。			○	食事提供の変更について相談した。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくる。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	家族と直接話をする機会が減っているため、電話等で一層向う様に努めている。	◎		○	運営推進会議に参加する家族は機会がある。電話で話をする際に聞いている。
		c	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	利用者、家族の話を聞く様に努め、苦情や相談に対応している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくらせている。	○	定期的に現場の様子を見に来ている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	考課表に基づき面談している。利用者本位の支援についても話し合っている。				○
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	管理者、職員はサービス評価の意義から目的を理解し、自己評価に取り組んでいる。				外部評価実施後の運営推進会議時に評価結果と目標達成計画について報告を行った。モニターをしてもう取り組みは行っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	事業所の現状や課題が明らかとなり、職員の気づきが学びの機会となっている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標達成計画を作成し、その達成に向けて取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議メンバー、家族に報告している。	△	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	事業者内や運営推進会議で取り組みについて報告している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	対応マニュアルを作成し、周知している。				緊急連絡網に地域の人が協力してくれており、地域の人の役割は、「利用者を駐車場まで避難させること」と決めている。年2回、水害、火災、夜間を想定した避難訓練を実施しているが、さらに、地域との協力・支援体制を確保できるような取り組みに工夫してほしい。また、家族アンケート結果を参考にしして取り組みを工夫してほしい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回訓練を行い、昼、夜間、火災、水害を想定して行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	備蓄品は2階に保管し、定期的に点検している。避難経路の廊下や窓の周りに物を置かないように注意している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	コロナウイルスの影響で地域の方や消防署との合同訓練ができない。災害時には協力体制がとれるよう声かけしている。	△	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	併設事業所と合同訓練をしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	コロナウイルスの影響で活動を自粛している。				特に取り組んでいない。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談があればその都度できる範囲の相談支援を行っている。		△	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナウイルスによる影響で、事業所の開放はできない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	コロナウイルスによる影響で、受け入れをしていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	コロナウイルスの影響で活動を自粛している。			×	